

九州大学総合研究 博物館ニュース

October 2009 No.13

新館長挨拶—新キャンパスにおける大学博物館のビジョン

松隈 明彦

今年4月から館長をつとめさせて頂いております、総合研究博物館の松隈です。これから2カ年、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、九州大学総合研究博物館は、2000年4月1日に創設され、今年で10年目を迎えました。7名の専任教員と3名の事務系職員からなる当館は、創設以来、展示や標本収蔵のスペースを備えた博物館独自の建物を持たないという困難な状況の中で各自の専門の研究を行うと共に、学内に蓄積された学術標本の実態調査と整理・公開、大学の教育・研究を社会に紹介する展示活動(公開展示、特別展示、平常展示、サテライト展示)、大学教育(学芸員資格関連科目、学部・大学院教育)、社会教育(公開講演会)、広報活動(博物館概要、年報、研究報告、博物館ニュース)等を通して、学内外の教育と研究の支援を行ってきました。創設10年目の節目の年、大学執行部からは「5年目評価・10年以内組織見直し」制度に基づく評価により、新キャンパス移転後における総合研究博物館のビジョンが問われています。これを機会に、大学博物館がこれから進むべき方向を、博物館スタッフ、運営委員会と共に、外部識者の意見を参考に考えてみたいと思います。

大学博物館のあり方と将来構想については、教員会議でたびたび議論すると共に、「新しい大学博物館を考える会」の提言(2003年)や「外部評価」(2006年)により、外部識者の

意見を聞いてきました。また、大学博物館等協議会の一員として、2007年からは協議会副会長校、2009年からは会長校として、協議会総会や協議会の下部組織である博物学会の研究発表を通じて、各大学博物館の事業と教育・研究活動を学び、各館が直面する諸問題についての情報を共有してきました。

これらを総合して考える新キャンパスにおける九州大学総合研究博物館のビジョンは、(1)大学が所蔵する学術標本を利用可能な状態に整理・保存し、構築したデータベースなどを基に、国内およびアジアの大学や博物館と連携して、標本・資料に基づく高等教育・学際的研究の拠点となる、(2)全国横並びの大学博物館を目指すのではなく、九州大学の歴史と地理的な位置に根ざした独自の大学博物館を目指す、(3)多分野にわたる標本資料と各分野の専門の研究者を擁するという特性を活かし、博物館を利用した校外学習や生涯学習に対応することで地域と連携した博物館を作り、社会と大学を結ぶ窓口となる、というものです。

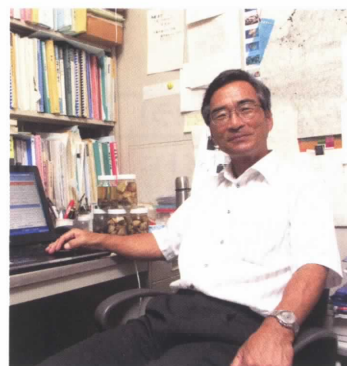
大学博物館が当初の設置目的に応えつつ、社会的責任を果たすためには、新キャンパスに全学の学術標本を収納できる標本庫スペースと、教育・研究のためのスペースを備えた博物館をできるだけ早く建てる必要があります。皆様のご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

松隈館長プロフィール

松隈明彦 (MATSUKUMA, Akihiko)

専門: 古生物学、軟体動物分類学

九州大学大学院理学研究科博士課程中退、理学博士。九州大学理学部、国立科学博物館動物研究部などを経て、2000年より九州大学総合研究博物館教授。専門は古生物学、特に軟体動物の系統分類学、種分化の様式と機構に関する研究。最近では、移入種オオクビキレガイの移入経路と分布拡大の追跡調査やヤマボタルガイの生物地理などの、分子生物学的手法を用いた解析にも取り組んでいる。趣味は採集とテニス。糸島在住。福岡貝類談話会主宰、九大・糸島会幹事。



オオクビキレガイ情報収集中!

畑や庭、植え込みなどによく見かけたら、
matukuma@museum.kyushu-u.ac.jpか、FAX:092-642-4299
までご一報下さい。

